

鹿病防第15号  
平成17年1月24日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号について

県内において、新たに「ピーマン黒枯病(仮称)」*Corynespora cassiicola* (Berk.& Curt.) Wei の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ(www.jpnn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。

病害虫発生予察 **特殊報第1号**

平成17年1月24日  
鹿児島県病害虫防除所

**1 病害虫名** ピーマン黒枯病(仮称)*Corynespora cassiicola* (Berk.& Curt.) Wei

**2 作物名** ピーマン

**3 発生確認及び発生状況**

(1) 発生確認年月日：平成16年12月24日

(2) 発生確認地：曾於郡志布志町(1ほ場)、肝属郡佐多町(1ほ場)

(3) 発生概況：曾於郡志布志町と肝属郡佐多町の施設栽培ピーマンで茎葉と果実に斑点性の障害が発生し、鹿児島県農業試験場による診断の結果、ピーマン黒枯病(仮称)*Corynespora cassiicola* (Berk.& Curt.) Weiと同定された。

本病の発生が確認されたほ場では、ハウス内が過湿で、特にハウス谷部の水滴が落ちるなど湿気が多い所で発生が多かったが、全体の発病率は葉、果実ともに1%以下と低かった。

これまでのところ、発生ほ場の周辺や他の地域で発生は確認されてない。

**4 形態及び生態の特徴(別添資料参照)**

**(1) 病徴：**

- ・葉では最初褐色小斑点が形成され、後に拡大し不整形の黒褐色輪紋状の病斑となり、黄色のハローを伴うことが多い。
- ・斑点病や斑点細菌病に似るが、葉脈に沿って病斑が広がり、葉が引きつる症状がみられる。
- ・葉裏では菌(分生子・分生子柄)が観察される。
- ・茎では黒褐色の斑点が形成され、しばしばピロード状の菌叢が認められる。
- ・果実、果梗にも黒褐色の斑点を生じることがある。

**(2) 病原菌の形態及び生態：**

- ・糸状菌の一種で不完全菌類に属し、分生子は長い棍棒状で分生子柄の先端から単生もしくは連生する。
- ・生態や伝染環の詳細は不明であるが、被害茎葉上に形成される分生子により伝染し、高温多湿条件下で多発生するものと思われる。

**5 防除対策**

- ・ほ場内が多湿にならないよう排水を良好にし、敷きワラなどを行う。
- ・発病茎葉は伝染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。
- ・本病に対する登録薬剤はないが、ピーマンの他の病害に登録のあるTPN水和剤、イプロジオン水和剤、同くん煙剤の防除効果が期待される。

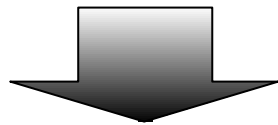
(別添資料1)

## 病徴及び菌の形態

【葉の病徴】



【果実の病徴】



(果実では黒褐色の斑点を生じる)

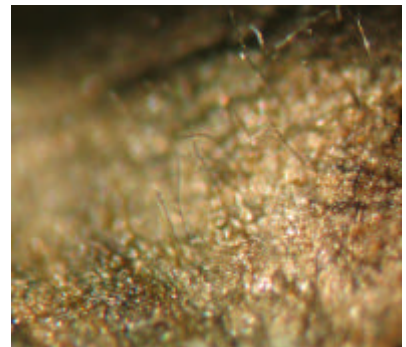
葉表



葉裏



拡大



分生子



- ・葉では最初褐色小斑点が形成され、後に拡大し不整形の黒褐色輪紋状の病斑となり、黄色のハローを伴うことが多い。
- ・斑点病や斑点細菌病に似るが、葉脈に沿って病斑が広がり、葉が引きつる症状がみられる。
- ・葉裏では菌(分生子・分生子柄)が観察される。

(別添資料2)

ピーマン黒枯病(仮称)と斑点病等との病徴の比較

病名	ピーマン黒枯病(仮称)	斑点病	斑点細菌病
部位	病原菌:糸状菌\不完全菌類	病原菌:糸状菌\不完全菌類	病原菌:細菌
葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめ褐色小斑点が形成され、後に拡大し不整形の黒褐色輪紋状の病斑となり、<u>黄色のハローを伴うことが多い。</u></li> <li>・<u>葉脈に沿って病斑が広がり、葉が引きつる症状がみられる。</u></li> <li>・葉裏に菌(分生子・分生子柄)が観察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめ中心部が白く、まわりに黒褐色のふちどりのある病斑を形成する。</li> <li>・ハウス内の乾・湿状態の繰り返しによって、褐色・灰褐色の輪紋を交互に描き数cm程度の病斑となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉裏にやや隆起した小斑点をつくり、後に数mm~10mm程度の円形または不整形円を形成する。</li> <li>・病斑の周縁部は暗褐色でやや隆起し、中央部は褐色となって幾分へこむ。</li> <li>・若葉では、葉脈にそって水浸状の病斑を生じ、奇形葉になることがある。</li> </ul>
茎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>黒褐色の斑点が形成され、しばしばピロード状の菌叢が認められる。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い枝に発生し、細長い円形の褐色から灰褐色の病斑を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水浸状の病斑ができ、後に病斑の表面が破れてかさぶた状となる。</li> </ul>
果実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>果実、果梗に黒褐色の斑点を生じる。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果実での発生はない。</li> <li>・果柄及びへたに発生し、細長い円形の褐色から灰褐色の病斑を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果実での発生は少ない。</li> <li>・円形または長楕円形の病斑を形成し、後にかさぶた状となる。</li> </ul>